

効能又は効果／使用上の注意改訂のお知らせ

抗悪性腫瘍剤－抗 HER2[※]抗体
トポイソメラーゼⅠ阻害剤複合体

エンハーツ[®]点滴静注用100mg

トラスツズマブ デルクステカン（遺伝子組換え）注

生物由来製品
劇薬

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

※HER2: Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2（ヒト上皮増殖因子受容体2型、別称：c-erbB-2）

2023 年 3 月
第一三共株式会社

このたび、標記製品の「効能又は効果」の追加（医薬品製造販売承認事項一部変更承認）及び「使用上の注意」の一部を改訂いたしましたので、ご連絡申し上げます。

つきましては、今後のご使用に際しご参照いただくとともに、副作用等の治療上好ましくない有害事象をご経験の際には、弊社MRに速やかにご連絡いただきますようお願い申し上げます。

1. 改訂の概要

《医薬品製造販売承認事項一部変更承認による改訂》

- (1) 「4. 効能又は効果」の項に、新たに取得した効能又は効果「化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌」を追記しました。

《自主改訂》

- (2) 「5. 効能又は効果に関連する注意」の項の、「化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌」に用いる場合の適応患者を適切に選択いただくための注意を追記しました。
- (3) 「11. 副作用」の項の副作用の発現頻度を変更しました。また、「11.2 その他の副作用」の項に「腹部膨満」「鼓腸」「胃炎」を追加しました。

2. 改訂内容〔（ ）医薬品製造販売承認事項一部変更承認による改訂、（ ）自主改訂、（ ）削除〕

改 訂 後	改 訂 前
4. 効能又は効果 ○化学療法歴のあるHER2陽性の手術不能又は再発乳癌 ○<u>化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌</u> ○がん化学療法後に増悪したHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌	4. 効能又は効果 ○化学療法歴のあるHER2陽性の手術不能又は再発乳癌 ←（追記） ○がん化学療法後に増悪したHER2陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

改 訂 後			
11. 副作用 現行通り			
11.1 重大な副作用			
11.1.1 間質性肺疾患 (10.6%) 重篤な間質性肺疾患があらわれることがあり、死亡に至った例も報告されている。異常が認められた場合は、本剤の投与を中止し、呼吸器疾患に精通した医師と連携の上、必要に応じて胸部CT検査、血清マーカー等の検査を実施するとともに、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。[1.2、7.2、8.1、9.1.1 参照]			
11.1.2 骨髄抑制 (58.2%) 好中球数減少 (39.1%)、貧血 (31.2%)、白血球数減少 (26.3%)、血小板数減少 (24.7%)、リンパ球数減少 (10.6%)、発熱性好中球減少症 (1.3%) 等があらわれることがある。[7.2、8.3 参照]			
11.1.3 Infusion reaction (1.7%) 重度のInfusion reactionがあらわれた場合には本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。[7.2 参照]			
11.2 その他の副作用			
	30% 以上	10 ～ 30% 未満	10% 未満
皮膚	脱毛症 (36.9%)		発疹、皮膚色素過剰、そう痒症
精神神経系			頭痛、浮動性めまい、嗜眠
消化器	悪心 (71.5%)、嘔吐 (36.6%)	下痢、便秘、口内炎、腹痛	味覚障害、消化不良、腹部膨満、鼓腸、胃炎
肝臓		AST 増加、ALT 増加	血中ビリルビン増加、血中ALP増加、 γ -GTP増加、肝機能異常、肝機能検査異常、トランスアミナーゼ上昇
呼吸器			呼吸困難、咳嗽、上気道感染、肺炎
循環器			心電図QT延長、駆出率減少、心不全
その他	疲労 (49.2%)、食欲減退 (31.1%)	体重減少	筋骨格痛、低カリウム血症、鼻出血、発熱、末梢性浮腫、ドライアイ、脱水、霧視、血中クレアチニン増加

改 訂 前			
11. 副作用 (略)			
11.1 重大な副作用			
11.1.1 間質性肺疾患 (9.5%) 重篤な間質性肺疾患があらわれることがあり、死亡に至った例も報告されている。異常が認められた場合は、本剤の投与を中止し、呼吸器疾患に精通した医師と連携の上、必要に応じて胸部CT検査、血清マーカー等の検査を実施するとともに、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。[1.2、7.2、8.1、9.1.1 参照]			
11.1.2 骨髄抑制 (58.5%) 好中球数減少 (42.9%)、貧血 (29.9%)、白血球数減少 (28.3%)、血小板数減少 (25.3%)、リンパ球数減少 (12.7%)、発熱性好中球減少症 (1.9%) 等があらわれることがある。[7.2、8.3 参照]			
11.1.3 Infusion reaction (2.5%) 重度のInfusion reactionがあらわれた場合には本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。[7.2 参照]			
11.2 その他の副作用			
	30% 以上	10 ～ 30% 未満	10% 未満
皮膚	脱毛症 (36.4%)		発疹、そう痒症、皮膚色素過剰
精神神経系			頭痛、浮動性めまい、嗜眠
消化器	悪心 (70.5%)、嘔吐 (38.3%)	下痢、便秘、口内炎	腹痛、消化不良、味覚障害
肝臓		AST 増加、ALT 増加	血中ビリルビン増加、血中ALP増加、肝機能異常、 γ -GTP増加、肝機能検査異常、トランスアミナーゼ上昇
呼吸器			呼吸困難、咳嗽、肺炎、上気道感染
循環器			心電図QT延長、駆出率減少、心不全
その他	疲労 (50.4%)、食欲減退 (32.7%)		体重減少、筋骨格痛、低カリウム血症、鼻出血、発熱、末梢性浮腫、脱水、ドライアイ、血中クレアチニン増加、霧視

3. 改訂理由

《医薬品製造販売承認事項一部変更承認による改訂》

(1) 「4. 効能又は効果」

本剤の国際共同第Ⅲ相臨床試験（U303試験）の結果より、「化学療法歴のあるHER2低発現*の手術不能又は再発乳癌」に関する有効性及び安全性が確認され、新たな効能又は効果として追加承認されたことから追記しました。

* IHC法1+、又はIHC法2+かつISH法陰性

《自主改訂》

(2) 「5. 効能又は効果に関連する注意」

新たに承認された効能又は効果に関して、現時点で、術前・術後薬物療法における本剤の有効性及び安全性を検討した臨床試験は実施されておらず、これらの治療目的での本剤の投与は推奨されないこと、また、本剤の期待される効果を得るためには、検査を適切に実施し、対象患者がHER2低発現であることを確認することが重要であることから、「化学療法歴のあるHER2低発現の手術不能又は再発乳癌」に用いる場合の注意を追記しました。

(3) 「11. 副作用」

新たな効能又は効果の追加承認に伴い、U303試験の結果より副作用を追加及び発現頻度を変更しました。

☆本剤の最新の電子添文については、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) 及び弊社ホームページ (<https://www.medicalcommunity.jp>) に掲載しておりますので、ご参照いただきますようお願い申し上げます。また、専用アプリ「添文ナビ」よりGS1バーコードを読み取ることで、最新の電子添文等をご参照いただけます。

エンハーツ点滴静注用



(01)14987081109507



Daiichi-Sankyo

製造販売元

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

〈製品情報お問い合わせ先〉

第一三共株式会社 製品情報センター

TEL：0120-065-132（がん・医療用麻薬専用）

〔受付時間 9：00～17：30（土、日、祝日、当社休日を除く）〕

ENH7OS0401

2023年3月作成